

地図について

—和漢書貴重図書目録の周辺—

大原 理恵

はじめに

本稿は、前稿¹に引き続き、平成17年度版『東北大学附属図書館本館所蔵 貴重図書目録 和漢書篇』の補足として、目録の記述方針・昭和11年版及び昭和36年度版『別置本目録』との相違等について、図書館員が貴重図書利用方針の検討や貴重図書追加指定または再検討等の際に参考とする場合を想定して記述する。そのため、周知の内容も便宜のため記し、貴重図書としての評価については最初に貴重図書目録が刊行された昭和11年前後を中心に記述する。現時点での結論ではなく経緯に重点を置くものである。これらの方針や数種の貴重書目録の略称等については、適宜前稿の参照をお願いしたい。

平成17年度版目録は貴重図書を大きく「古写本古刊本」「原本稿本名家書入手沢本」「書画画図」「稀本」に分けている。今回は「書画画図」のうち「地図」を対

象とする。

村岡典嗣（東北帝国大学教授・附属図書館長）が「狩野文庫について」（昭和12年10月）において狩野文庫の特色を述べるなかで主な「聚書」として、書目類・和算書・黄表紙・孝経・和漢朗詠集とともに「地図約一千百八十部」²を取り上げており、当時としては狩野文庫のなかでも注目すべき聚書であった。『東北大学所蔵和漢書古典分類目録 和書中』（昭和53年1月）三 歴史 地理 - 四 地理 - 八 地図を眺めてみると、972頁上段から1003頁上段までが地図であるが、その殆どが狩野文庫本である。さすがに仙台を含む「陸前」の分類においては本館一般古典の割合が増えているのみで、東北大学附属図書館の蔵書については、この分類における狩野文庫の重要性は明らかであろう。

1. 「地図」の目録構成と記述

昭和36年度版『別置本目録』との相違点を述べる。

目録における資料の配列については、『別置本目録』は「地図刊本」「地図写本」に分け、資料名の五十音順に配列³している。同名の資料では作成年代順である。これらは『別置本目録』の基本原則に従っている。一見地域で分類しているようにも見えるが、資料名の類似による偶然の結果と考えられる。

平成17年度版『貴重図書目録』の配列は、方針を変更し、写本刊本を分けず対象とする地域で分類し、さら

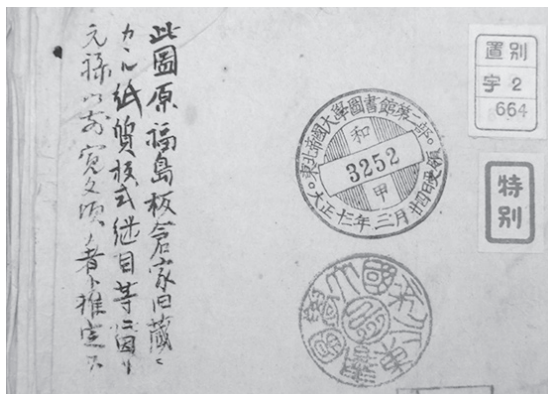
に年代順に配列した。その構成を図示すると、目録の見開きで【図1】のようになっている。目録では「地図」の前は「書目類」であるが、「地図」に近い位置には、街道図等、地図に性格に近い資料を配している。

『増上寺一山總繪圖』（宇2-689）『上野一山繪圖』（宇2-682）は、ともに阿部伊勢守旧蔵で本来一対のものと考えられたので、並べて記した。板倉氏（福島城主）旧蔵資料も地域・作成年代など性質が近いことからまとめて記した。

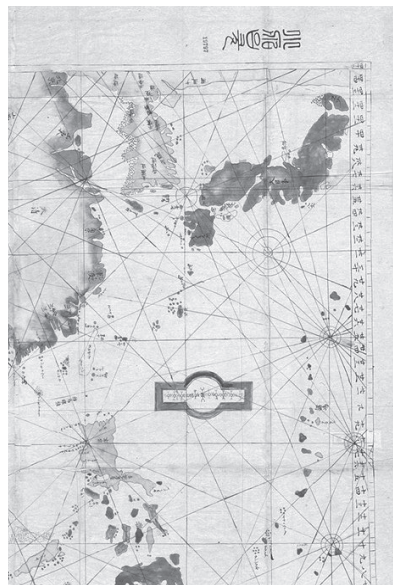
1 「公平本（金平本）について：和漢書貴重図書目録の周辺」大原理恵 東北大学附属図書館調査研究室年報 3 東北大学附属図書館 2016年3月

2 『狩野文庫概説』東北帝国大学附属図書館 13頁

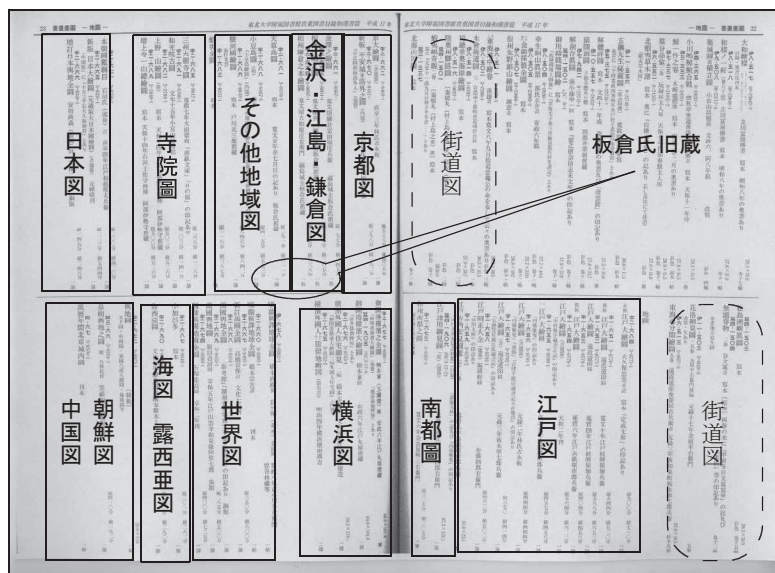
3 『小加呂多』（宇2-687）は11年版『別置本目録』では「ショウ」と読んで「駿河國繪圖」と「小豆島圖」の間に置いているが矢島氏は「コ」とよむべきであるとしている（『狩野文庫について—在館33年の思い出—』矢島玄亮『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年4月）。平成17年度版『貴重図書目録』書名索引ではどちらの読み方でも検索できるようにした。なお、『小加呂多』については、中村拓「東亜の古地図」（『横浜市立大学紀要』A-19 88 1958年3月）・『ちずのしわ』うんのかずたか 雄松堂出版 昭和60年 等参照。



【写真1】『相州鎌倉之本繪図』(字2-664) 板倉氏旧蔵を示す地図裏面の墨書。作成年代についての考証がある。



【写真2】『小加呂多』(字2-687) ※狩野文庫データベース⁴



【図1】平成17年度『東北大学附属図書館本館所蔵貴重図書目録 和漢書篇』22-23頁

昭和11年『和漢書別置本目録』以降の貴重図書(別置本)の追加状況は次の通りである。追加についての記録があるものはこれを注記する。

○皇明輿地之圖(阿3-66)(3-9334-1)

昭和15年長澤規矩也氏の指摘により別置⁵

「別置本目録追加」⁶(謄写版)昭和22年1月27日

○御開港横濱大繪圖(字2-677)(3-8597-1)

横濱外国人住宅細見(字2-676)(3-8753-1)

横濱外国人「海岸/山手」居留地絵図(字2-675)(3-8752-2)

原議書⁷昭和41年1月3日(起案)

推薦者:長澤規矩也

4 東北大学附属図書館「東北大学デジタルコレクション 狩野文庫データベース」による。この注記のあるものは以下も同。
http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano

5 「狩野文庫について—在館33年の思い出—」矢島玄亮『MAUL 宮城県大学図書館協会会報』27 1966年4月

6 東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(二)—昭和36年版『東北大学附属図書館別置本目録 増訂稿』刊行まで—
大原理恵 東北大学史料館紀要9 東北大学史料館 2014年3月78頁・88頁参照

7 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について(三)—昭和63年 貴重図書選定委員会設置まで—」大原理恵 東北大学史料館紀要10 東北大学史料館 2015年3月17頁・59頁参照

○江戸諸用細（綱）見圖（延 4-1906）（丙C 3-17,21）

御開港横濱大繪圖（延 4-1905）（丙C 3-17,6）

「貴重（別置）本増加図書目録」⁸昭和51年11月30日現在（手書）

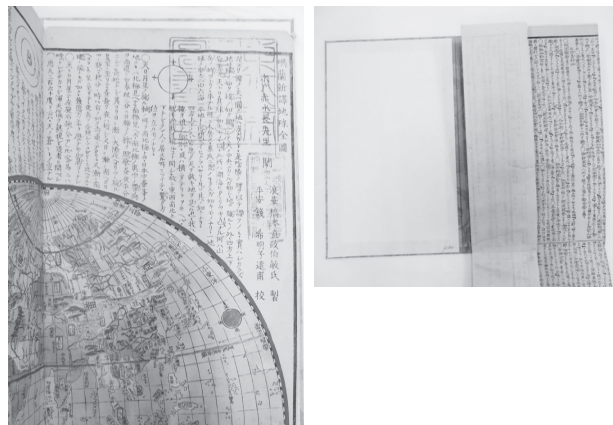
○嗚蘭新譯地球全圖（伊 -678）（3-9383-1）

萬曆年間北京城内圖（阿 -67）（3-9376-1）

『横濱外国人住宅細見』（字 2-676）（3-8753-1）（登録番号 3229）『横濱外国人「海岸 / 山手」居留地繪圖』（字 2-675）（3-8752-2）（登録番号 17454）は『狩野文庫特別本目録』（昭和10年3月）⁹においては、他の横浜図とともに特別本とされており、昭和41年の別置によって、「横浜図」自体が新たに貴重図書の対象とされたと見るべきであろう。

『江戸諸用細（綱）見圖』（延 4-1906）『御開港横濱大繪圖』（延 4-1905）は、『別置本目録』『狩野文庫以外 7 稀本』の「諸種刊本」の分類に追加されていたためこの函架番号（延）となっている。「狩野文庫以外」では「6 畫圖 書畫及ビ繪卷物 繪本」に「地図」の分類がないための処置と思われるが、このことから地図資料における狩野文庫の重みが察せられる。なお、『皇明輿地之圖』（阿 3-66）『萬曆年間北京城内圖』（阿 -67）が「阿」であるのは、本来「中国古刊」に分類されていたためである。

『嗚蘭新譯地球全圖』（伊 -678）（3-9383-1）（登録番号 17016）は、『狩野文庫別置本目録』（昭和10年4月）¹⁰においては『嗚蘭新譯地球全圖』（伊 -660）（3-9383-1）（登録番号 3140）とともに記載されていたが、昭和11年『別置本目録』には記載されていない。その後研究者からの指摘もあり懸案となっていたが¹¹、再度ともに貴重書とした。「江戸時代世界地図概説」栗田元次（昭和11年10月22日放送原稿『史学研究』10-1 広島史学研究会 昭和13年7月）には「〔嗚蘭新譯地球全圖ノ〕初版は図帖であったが、重版は折図で木版筆彩色である。」（77頁）としているのは、昭和11年版別置本目録刊行当時の評価を示すものであろう。ただ、この評価は「西洋のこの時期は折図即ち map よりも図帖即ち atlas の方が普通であったから、折図は我が国の特色とも言い得る訳である。」（73頁）という文脈で理解すべきものかもしれない。



【写真3】『嗚蘭新譯地球全圖』（伊 -660）（3-9383-1）は貴重書指定以前に改修されている

その他『狩野文庫別置本目録』（昭和10年4月）収載資料では、『武州豊島郡江戸庄圖』刊本（3-8892-1）（登録番号 17539）を寛永版ではなく化政頃のものとして、別置を取り消し「特別本」としている。

逆に、次の資料は『狩野文庫別置本目録』（昭和10年4月）において、後から挿入されたと考えられるものである（別置函架番号の記載がなく、挿入されたと思われる用紙にまとめて記されている。）その内、※は、『狩野文庫特別本目録』（昭和10年3月）に収載されているものであり、特別本と別置本の判断基準を推察する材料となるであろう。

新訂 萬國全圖（字 2-677）（3-9405-1）（登録番号 17027）

高橋景保訂 文化七年刊

本朝圖鑑綱目※（字 2-671）（3-8350-1）（登録番号 17114）

石川氏（流舟）訂 貞享四年 江戸相模屋太兵衛

増訂日本輿地全圖（字 2-666）（3-8340-1）（登録番号 20943）

安田尚義（雷洲）圖 天保二年序 銅版

和州南都之圖※（字 2-673）（3-8397-1）（登録番号 3244）

寛文六年奈良尾崎三右衛門 福島城主板倉氏舊藏

新板 平安城並洛外之圖※（字 2-670）（3-8447-1）（登録番号 17618）

天和元年京井筒屋吉兵衛

駿河國繪圖（字 2-686）（3-8643-1）（登録番号 3459）

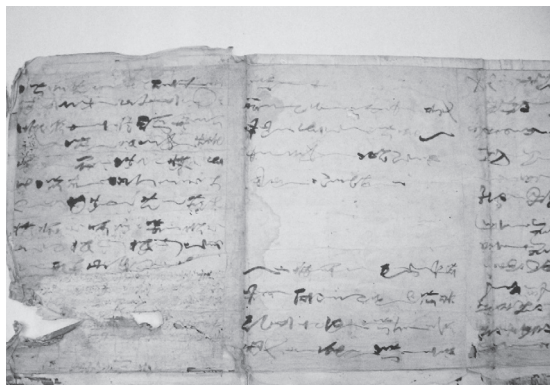
寫本 戸川元三郎舊藏

8 同上 54頁参照

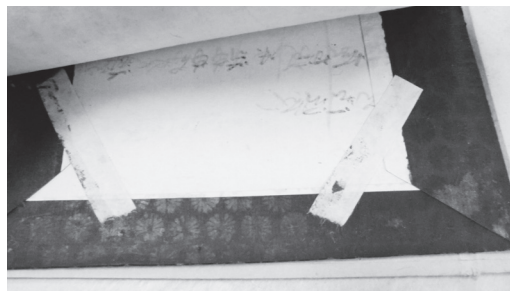
9 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（一）—昭和11年版『和漢書別置本目録 未定稿』刊行とその周辺—」大原理恵 東北大学史料館紀要 8 2013年3月 82頁参照。手書の目録で附属図書館本館事務室で保管。

10 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（一）」82頁参照。

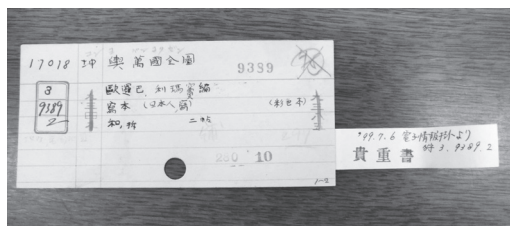
11 『ちずのしわ』うんのかずたか（雄松堂出版 昭和60年）「橋本宗吉世界図の異版・偽版・模倣版」参照。



【写真4】駿河國繪圖(宇2-686)裏面



【写真5-3】『坤輿萬國全圖』(3-9389-2)表紙裏面



【写真6】『坤輿萬國全圖』(3-9389-2)カード目録特別本にすることが検討された形跡(鉛筆で「特」と書き、×で消している)がある。付箋には電子情報掛の申請で1999年7月に貴重書庫保管としたことが記されている。

なお、附属図書館本館所蔵の『坤輿萬國全圖』(寫本狩野文庫3-9389-2)は、複製が屏風として作成¹²され、しばしば附属図書館開催の展示において会場を飾っていることから、貴重図書と思われがちであるが、原本は別置されているものの貴重図書には指定されていない。原本は現在屏風ではなく畳まれた状態である。



【写真5】展示における『坤輿萬國全圖』複製(屏風)



【写真5-2】『坤輿萬國全圖』(3-9389-2)

目録記述の方針について記す。

資料名は『別置本目録』を踏襲している。『別置本目録』は内題を採るのが原則である。ただし書題簽の資料名・別名がある等注意を要する場合は資料名に添えて括弧内にその題名の位置・性質を記した。

『江戸図の歴史』飯田龍一・俵元昭(築地書館1988年)は、『江戸方角安見図』の名称について、「版図の場合は、題簽で図名をとるほうがよい」(80頁)「地図のばあい内題がないことが多いので、どうしても題簽記載の題名を標題として採用せざるをえない」(45頁脚注)としている。

資料の大きさは、『貴重図書目録』では縦横をcmで示すのが原則であるが、地図については、昭和11年『別置本目録』から、大きさが「分」で示されており、以前からの別置本についてはこれを転載した。それは旧来の単位による記載を借しんだのと、目録編纂時点で、地図の紙の継目が離れて解体状態にあるなど、大きさを計測することが困難な場合があったことにもよる。

『ちずのしわ』うんのかずたか(雄松堂出版昭和60年)の書名は、量物である地図の大きさを計測がいかに困難であるかを示したものである。

12 「貴重資料の電子化について」情報シナジーセンター学術情報支援掛長 日出弘・「マテオ・リッチ「坤輿萬國全圖」のデジタル復元実験」総務課情報企画掛長 米澤誠『木這子』東北大学附属図書館報 第27巻第2号(通巻99号)平成14年9月参照。この地図が注目されるようになった契機については、「セベリア万博を飾る 狩野文庫収蔵「坤輿萬國全圖」彩色写本」高橋由貴彦(写真家)『木這子』東北大学附属図書館報 第17巻2号(通巻62号)平成4年10月参照。

『江戸の地図屋さん 販売競争の舞台裏』 依元昭（歴史文化ライブラリー 168 吉川弘文館 2003 年）は『江戸図総覧』（『江戸図の歴史』別冊）等の寸法について「寸法ミリメートルまで計測したのは飯田〔龍一〕の主張で、裏打改装や和紙の伸縮を考慮すれば以下の四捨五入など概略を主張する筆者との間に意見の相違があった。しかし実際に計測してみると、概算はかえって面倒で、ミリメートルまで読むほうが容易かつ効率的で」（105 頁）あったとしている。

刊写事項について。昭和 36 年度版『別置本目録』に館員による修訂の書込のあるものが保管されていた（情報管理課専門員用）。分類によって書込みの程度に差があり、地図刊本前半部分（字 1-651～字 2-664 江戸図・京都図・鎌倉図等）は特に書込が多い部分となっていて、原題簽の有無・刊行についての修正加筆がなされている。

昭和 36 年度『別置本目録』では、刊本書肆名の後に「板」とあるのが通例であるが、平成 17 年度『貴重図書目録』では削除している。これは所謂「刊・印・修」の「刊」と誤認されるのを避ける意味もある。上記の書入本『別置本目録』では、例えば、次のような加筆を行って「刊・印・修」についての記述を整えようとしていることがうかがえる。

江戸大繪圖（字 2-652）

「江戸經師屋加兵衛板」⇒「江戸經師屋加兵衛板**印**」

江戸圖正大全（字 2-658）

「佐藤四郎右衛門板」⇒「元禄六年佐藤四郎右衛門板の**後印**」

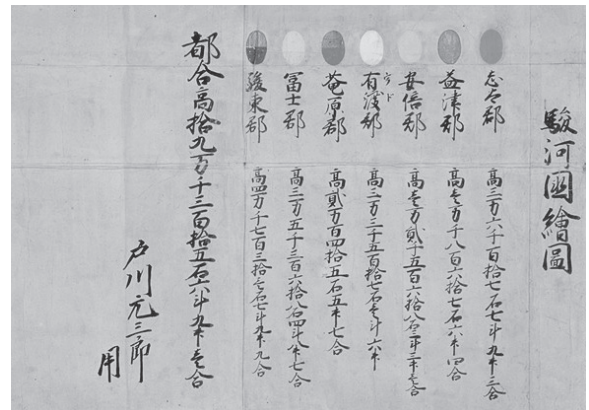
※下線が加筆部分

これには、長澤規矩也氏の指導があったことも考えられる。長澤氏は、昭和 40 年頃東北大学附属図書館に度々来訪、図書の調査・目録記述についての指導を行っている¹³。同じ頃、長澤氏は「江戸の版圖について」（『書誌学』復刊 新第 2 号 昭和 40 年 11 月）を発表、その「まへがき」は「そもそも、古書を取扱ふ場合、出版事項として最も大切なことは、刊と印と修との區別である。」¹⁴と始められている。「江戸圖目録稿」¹⁵も昭和 40 年代初め頃の執筆と推定されているので、特に江戸図の調査に力を入れていた時期であったと思われる。

これらの修訂は全体の目録記述方針との関係で、平成 17 年度版目録には十分に反映させることができなかったのは遺憾である。

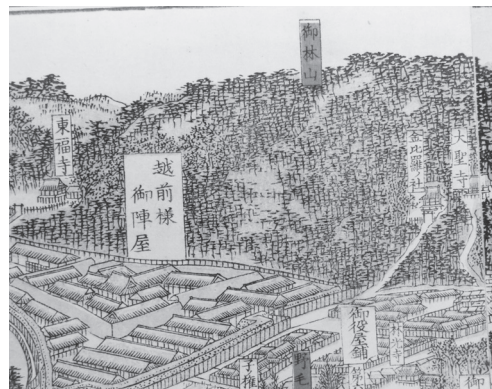
その他の特記事項について記す。

彩色の有無は地図については、『別置本目録』と同様、記述の対象としていない。これは「地図」が彩色資料が稀ではない「書画画図」に含まれているためであるが、今後は適切な記述方式によって情報を追加することが望ましいであろう。



【写真 7】駿河國繪圖（字 2-686）写真では分かりにくいが多くの色を利用した地図である。※狩野文庫データベース

『御開港横濱之全圖（御開港横濱大繪圖）』（字 2-677）安政六年江戸丸屋徳藏と『御開港横濱大繪圖』（延 4-1905）安政六年江戸丸屋徳藏を区別するため「越前様御陣屋」（字 2-677）【写真 8】・「酒井様御陣屋」（延 4-1905）【写真 9】¹⁶の記述を加えた。



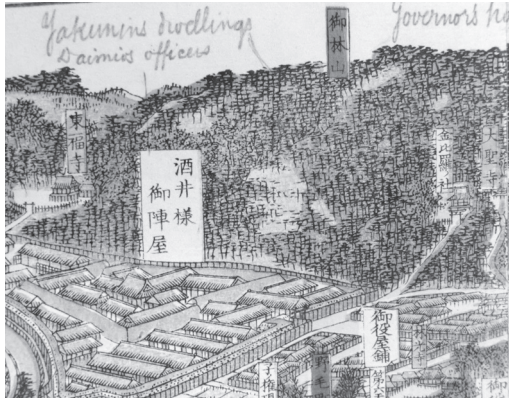
【写真 8】『御開港横濱之全圖（御開港横濱大繪圖）』（字 2-677）

13 「東北大学附属図書館和漢書貴重図書目録の刊行について（三）」大原理恵（注 5 参照）48・49 頁

14 『長澤規矩也著作集』第 8 卷（汲古書院 昭和 59 年）174 頁

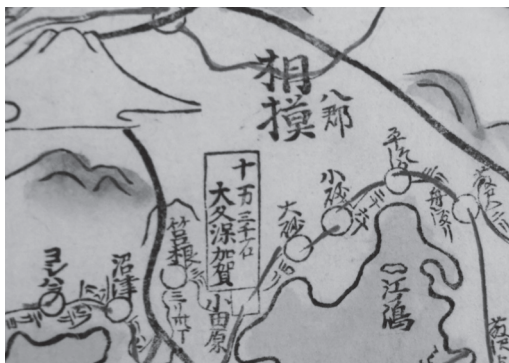
15 『長澤規矩也著作集』第 8 卷（汲古書院 昭和 59 年）所収。作成時期は『江戸圖目録稿』について「木村八重子（同著作集所収）によった。

16 写真の欧文は書込である。

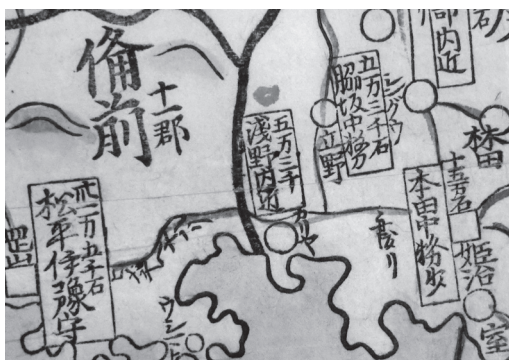


【写真9】『御開港横濱大繪圖』(延4-1905)

『新版日本大繪圖(元祿版大日本國繪圖)』(宇2-665)に作成年の手掛かりとして、「小田原」に「十万三千石大久保加賀」とあり¹⁷の記述を加えた¹⁷。

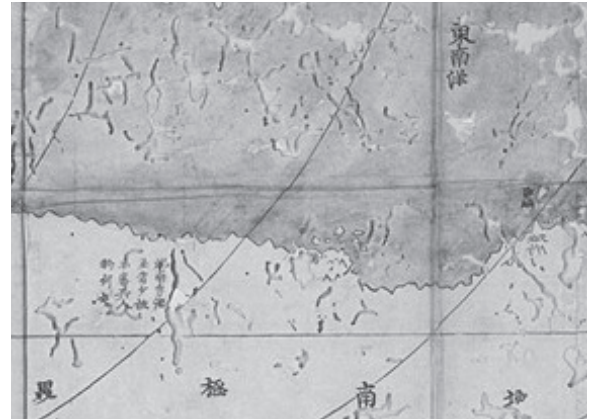


【写真10】『新版日本大繪圖(元祿版大日本國繪圖)』(宇2-665)



【写真10-2】『新版日本大繪圖』(宇2-665)「カリヤ」「五万三千 浅野内匠」に赤い丸印がある

『萬國輿地圖』原目貞清(宇2-669)の損傷が著しいため特に「虫損」の記述を加えた。古典籍の場合多少の虫損はしばしば見られるので、通常記述していない。

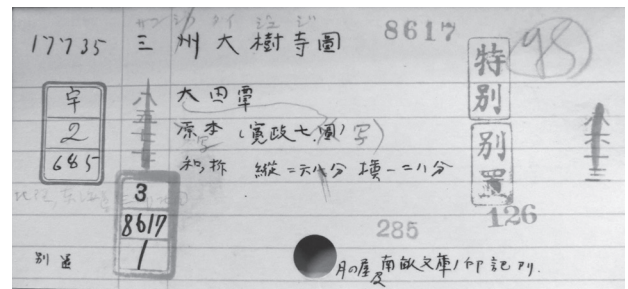
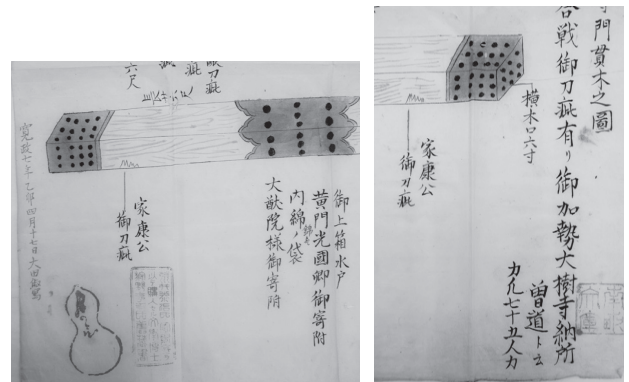


【写真11】『萬國輿地圖』(宇2-669) 損傷状況 ※狩野文庫データベース

本資料は稀本¹⁸とされており、損傷は残念である。

写本の場合には、別置本選出にあたって名家に惹かれた面もあるように思われる。

『三州大樹寺圖』(宇2-685)は、最初大田南畝の作成した原本と考えて別置本とした(カード目録記述による)



【写真12】『三州大樹寺圖』(宇2-685)とカード目録

ようである。後に、大田南畝写本と改めている。

『和光院古圖』(宇2-691)は文化15年小宮山昌秀写である。『水府地理温故録』高倉胤明には「今和光院に伝来する院宇の図中、井戸にはねつるべを画ける。」¹⁹と

17 参考『日本地図史』秋岡武次郎 河出書房 昭和30年 138頁上

18 『鎖国時代 日本人の海外知識 世界地理・西洋史に関する文献解題』開國百年記念文化事業會編 乾元社 昭和28年 211頁上「輿地圖」この書は附属図書館事務用図書がある。

19 『茨城県史料』近世地誌編 茨城県 昭和43年 65頁



【写真13】『和光院古圖』（字2-691）

※狩野文庫データベース



【写真14】小豆島圖（字2-688）が納められている箱

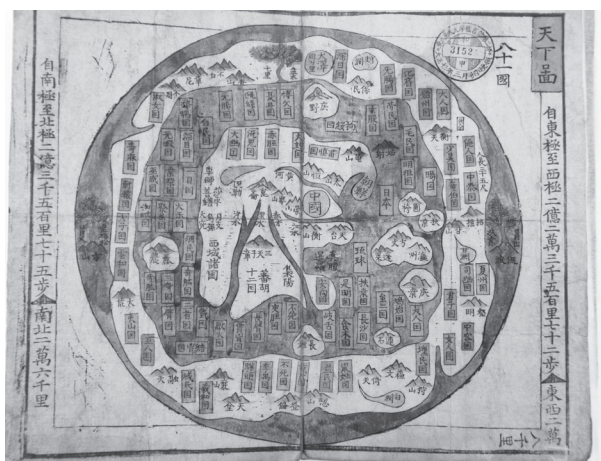
の記述がある。

『小豆島圖』（字2-688）には、「小堀遠江守御代官之時公儀え書上候繪圖寫」と記されている。この地図が納められている木箱は、郵送のために利用されたものらしく、香川県小豆郡役所から森治蔵宛となっている。森治蔵とは、『小豆郡誌』調査委員長でもあった森遷の長子²⁰であろうか。

『輿地圖』（字2-672）〔韓板〕については、記述が乏しいので、ここで画像を紹介しておく。いかにも朝鮮本らしく糸で綴じられたとじられたように、赤い線が引かれている。



【写真15】輿地圖（字2-672）



2. 複製・電子化資料について

東北大学附属図書館の地図貴重図書の画像が、比較的まとめて紹介されている例をとりあげると、『江戸時代の神奈川 古絵図でみる風景』神奈川近世史研究会編 有隣堂 1994 年には『金沢之繪図』（字2-661）66頁『相州江島之図』（字2-663）70頁が掲載されている。

『日本古地図大成』世界図編〔本編〕解説（織田武雄・室

賀信夫・海野一隆編集委員）講談社 1975 年には、『万国輿地全図』（字2-268）（85）・『圓球万国地海全図』（字2-674）（83）・『小加呂多』（字2-687）（50）『魯西亞図』（字2-690）（84）が掲載されている。

電子画像については、平成17年度『貴重図書目録』掲載の狩野文庫由来の貴重図書については一部を除いて²¹

20 参考『講談社日本人辞典』講談社 2001 年・『小豆郡誌』香川県小豆郡役所編 大正 10 年

21 画像を公開していない資料は次の通り。地図以外の分類：上野一山繪圖（字2-682）・増上寺一山總繪圖（字2-689）明治以降の資料：横濱外國人海岸山手居留地繪圖（字2-675）漢籍・韓本：輿地圖（字2-672）皇明輿地圖（阿3-66）萬曆年間北京城内圖（阿-67）狩野文庫以外：江戸所用綱見圖（延4-1906）御開港横濱大繪圖（延4-1905）

カラー画像が『東北大学デジタルコレクション 狩野文庫データベース』²²で公開されている。元の画像は狩野文庫マイクロ化事業（平成5年撮影終了）において作成されたという経緯もあって、改善すべき点も見られる。画像を拡大すると文字がぼやけて読めない場合がある、分割された画像相互の位置関係が分かりにくい、表紙の画像が含まれていない等である。



【画像1】狩野文庫データベース
『江戸大繪圖』(宇 2-684)(3-8775-1) 大久保忠孝考證

この点が改善されているのが、高精細画像の『クリックابلマップ』²³で現在次の5点の地図が公開されている。『坤輿萬國全圖』以外は貴重図書である。

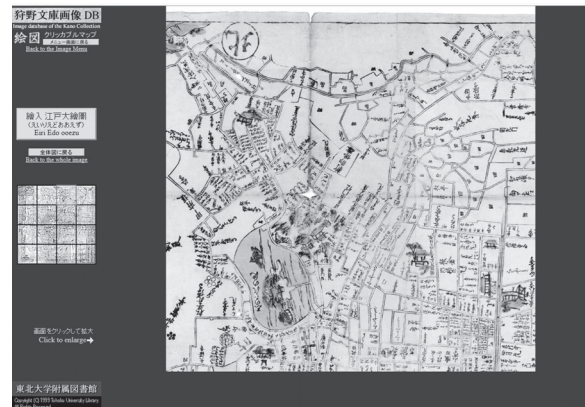
- 坤輿萬國全圖 寫本 (3-9389-2)
繪入江戸大繪圖 貞享元年刊 (宇 1-655) (3-8780-1)
京大繪圖 貞享3年刊 (宇 2-662) (3-8402-1)

3. 江戸図をめぐる

『江戸図の歴史』飯田龍一・俵元昭（築地書館 1988年）は、江戸図評価のあり方を次のように批判する。

これらの評価には、江戸図の絵画的要素の評価がとくに感じられるが、この点には、一抹の危惧の念がないわけでもない。（中略）地図本来の性格からいえば、それは道筋の方位と縮尺がいかに誤りないかにつきるともいえよう。 『江戸図の歴史』 77頁

- 小加呂多 寫本 (宇 2-687) (3-9348-1)
天草島圖 寫本 (宇 2-681) (3-9176-1)



【画像2】クリックابلマップ『江戸大繪圖』(宇 1-655) (3-8780-1)

「象形文化の継承と創成に関する研究」（特別推進研究（COE）東京大学 1999 - 2003年）においては、東北大学附属図書館所蔵の江戸図を撮影、電子画像を作成している。その利用についての取り決めは、『象形文化の継承と創成に関する研究』青柳正規研究代表者 東京大学大学院人文社会系研究科象形文化研究拠点 2004年3月（平成11-15年度科学研究費補助金特別推進研究（COE）研究成果報告書）に記されている。この事業の一環として『東北大学附属図書館狩野文庫所蔵江戸絵図調査報告書』（東北大学附属図書館・東京大学人文社会系研究科象形文化研究拠点 2004年）が作成されている。

その他、平成16年度第4回附属図書館商議会（平成17年3月24日開催）において、「古地図類のオンデマンド出版契約について」が協議されている。（東北大学附属図書館報『木這子』第29巻第4号（通巻109号）平成17年3月）

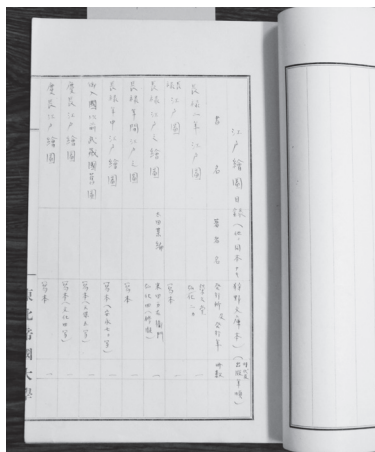
附属図書館貴重図書の場合も、地図、特に江戸図や地図写本についてはそうした情緒的評価による判断もあったと思われる。しかし、そればかりではなかったと考えられるのは、次の目録の存在である。

東北大学史料館所蔵の図書館関係文書の中に、図書館職員が作成したと思われる江戸図の目録がある。〔展覧目録一括〕（図書館/2014/B-37）昭和2年6月 - 昭和7年10

22 古地図約900点は、平成14年度東北大学教育研究協力基金の助成により作成
※ http://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000398kano 解題による

23 <http://www.i-repository.net/contents/tohoku/kano/ezu/index.html>

月に含まれている資料で、柱に「東北帝國大學」と印刷された罫紙を紙綴で綴じたもの2冊、表紙には「江戸繪圖目録（他館所蔵ノモノ年代順）」「江戸繪圖目録（狩野本）」とある。後者には、内題に、「（他ニ同本ナキ狩野文庫本）（時代及出版年順）」と付記されている。作成年代・作成者名等は見当たらない。



【写真16】『江戸繪圖目録（他館所蔵ノモノ年代順）』（図書館/2014/B-37）

『江戸繪圖目録（他館所蔵ノモノ年代順）』の表紙裏に記されている他館（目録を含む）とは次の通りである。

- 南葵文庫
- 帝国図書館
- 宮内省図書寮
- 江戸図書目提要所載
- 尚古造紙挿所載
- 従吾所好所載
- 京都図書館
- 宮城県図書館
- 東京市立日比谷図書館

この内、日比谷図書館は、目録末尾にまとめて記され、狩野文庫本の目録には日比谷図書館の所蔵を理由に抹消されている資料があるので、やや遅れた時期に日比谷図書館所蔵分は記載されたものらしい。本館における目録の所蔵状況・目録の記述内容等から、編纂には次のような目録が使用されたと推測される。

- 『雙桂樓遺書 海舟遺書 學海遺書 地理歴史圖表』
（南葵文庫圖書目録2）南葵文庫 大正2年
- 『帝国図書館和漢圖書分類目録』地誌及紀行之部

- 増訂版 帝国図書館 明治35年
- 『帝室和漢圖書目録』宮内省図書寮 大正5年
- 『未刊隨筆百種』第12 三田村鳶魚校訂 米山堂 昭和3年
・「江戸図書目提要」
- 『尚古造紙挿』文政13年 鷄鳴舎版
※あるいは日本隨筆大成か
- 『従吾所好』林若吉 明治45年
- 『京都図書館分類書目』和漢之部 京都図書館 明治43年
- 『宮城県立図書館和漢圖書分類目録』宮城県立図書館編 古書之部 大正6年

日比谷図書館については『大東京関係誌料目録 地誌之部』（東京市立日比谷図書館編 東京市 昭和7年）によったとも考えられるが、書誌記述がやや異なっている。

『江戸繪圖目録（狩野本）』に掲載されている狩野文庫本の一覧は【表1】の通りである。この表で別置本及び特別本を確認すると、記載のない江戸図別置本は『江戸方角安見圖鑑』（字1-659）（3-8794-2）のみである。また、記載のない特別本（冊子体「特別本」目録所載）は次の通りである。

- 元禄江戸大繪圖 3-8829-1 元禄版初印 江戸 須原屋茂兵衛
- 宝永江戸繪圖 3-8867-1 遠近道印圖 宝永4修
江戸 萬屋清兵衛
- 武州豊島郡江戸庄圖 3-8892-1 刊本
※「別置本目録（手書）」記載。寛永版ではなく化政頃として別置取消（カード目録）

『江戸繪圖目録（他館所蔵ノモノ年代順）』『江戸繪圖目録（狩野本）』が編纂されたのは、11年版『別置本目録』編纂の時期とそれほど隔たつてはいないように思われる。この目録の存在を別置本・特別本の選定と直結させることはできないかもしれないが、作成者が江戸図の総目録的なものを目指しながら、そこでの狩野文庫江戸図群の位置を見極めようとしていたことは、確かであろうと思われる。

【目録訂正一覧】

- 書肆名の前に「江戸」の記述追加：糸入江戸大繪圖（字1-655）・江戸大繪圖（字1-657）・江戸圖正大全（字1-685）・江戸方角安見圖鑑（字1-659）
- 配列順入替：京大繪圖（字2-662）⇔新板 平安城並洛外之圖（字2-662）※京大繪圖が後

【表1 江戸繪圖目録(狩野本)】

※書名・書誌事項は、『江戸繪圖目録(狩野本)』の記述に従い、現在の狩野文庫請求記号(推定)記入した。

別置/特別	請求記号	資料名	編者等	出版(書写)者	出版(書写)年	備考
	3-8839-1	長禄二年江戸圖		榮久堂 弘化二カ		
	3-8789-1	「長/禄」江戸圖		寫本		
	3-8838-1	長禄江戸之繪圖	太田某編〔太田時利編〕	米田万右衛門 弘化四(修版)		
	3-8840-1	長禄年間江戸之圖		寫本		
特別	3-8841-2	長禄年中江戸繪圖		寫本(安永七カ写)		
	3-8830-1	御入國以前武蔵國舊圖		寫本(天保五写)		
特別	3-8827-1	慶長江戸繪圖		寫本(文化四写)		
	3-8828-1	慶長江戸繪圖		寫本		
	3-8894-1	武州豊島郡江戸庄圖	蘭浄齋叟馬圖	寫本(文政三写)		
	3-8788-1	江都芝神明町舊圖		寫本(寛政八写カ)		
	3-8826-1	寛永年中江戸圖		江見屋吉右衛門 文化一二(寛永版翻刻)		
字 2-684	3-8775-1	「正/保」江戸大繪圖	大久保忠寄考	原本		
字 1-651	3-8776-1	「新/板」江戸大繪圖	遠近道印(久音)圖	經師屋加兵衛 寛文一〇		
字 1-652	3-8777-1	江戸大繪圖	遠近道印(久音)圖	經師屋加兵衛 延寶四		
字 1-653	3-8778-1	「新/板」江戸大繪圖		表紙屋市郎兵衛 延寶六		
字 1-654	3-8779-1	江戸大繪圖		天和二		
字 1-655	3-8780-1	「ゑ/入」江戸大繪圖		表紙屋市郎兵衛 貞享元		
	3-8802-1	御江戸大繪圖		林治左衛門 貞享三(天和版後刷)		
字 1-656	3-8781-1	江戸大繪圖	林治左衛門編	同人 元禄二		
字 1-657	3-8782-1	江戸大繪圖	遠近道印	板木屋七郎兵衛 元禄三		
	3-3988-1	聖堂之繪圖		序, 元禄四		
特別	3-8889-1	分間江戸圖	遠近道印圖	板木屋七郎兵衛 元禄一〇		
特別	3-8768-1	江戸繪圖	遠近道印	板屋弥兵衛 元禄一三		
特別	3-8783-1	「改/撰」江戸大繪圖「一分十間賃」	遠近道印	板屋弥兵衛 元禄一四		
特別	3-8868-2	寶永江都圖鑑「並同江東本所圖鑑」	石河流宣圖	富林太兵衛 寶永三		
	3-8898-1	分道江戸大繪圖	石川流宣	山口屋權兵衛 正徳三		
	3-8784-1	江戸大繪圖	温清軒	須原屋茂兵衛 正徳年カ		
	3-8814-1	享保度江戸大繪圖		須原屋治右衛門 享保九(改刷)		
	3-8878-1	分間江戸大繪圖		須原屋治右衛門 享保一三(改刷)		
	3-8879-1	分間江戸大繪圖		須原屋治右衛門 享保一四(改刷)		
	3-8880-1	分間江戸大繪圖		須原屋治右衛門 享保一五(改刷)		
	3-8774-1	江戸御繪圖	北居沾涼	若菜屋小兵衛 延享五		
	3-8761-1	安見御江戸繪圖		須原屋茂兵衛 寶曆一四		
	3-8881-1	分間江戸大繪圖	遠近道因(藤井半知)	須原屋茂兵衛 寶曆一四(修版)		
	3-8882-1	分間江戸大繪圖	遠近道因	須原屋茂兵衛 明和二(修版)		
	3-8815-1	懷寶御江戸繪圖		須原屋茂兵衛 明和二		
	3-8883-1	分間江戸大繪圖	金丸影直	須原屋茂兵衛 安永九		
	3-8769-1	改正江戸繪圖		奥村喜兵衛 天明二		
	3-8825-1	「再刊/改正」廣益御江戸繪圖		西村與八等 天明八		
	3-8798-1	江戸分間大繪圖	遠近道因	須原屋茂兵衛 天明八(修版)		
	3-8832-1	「再/版」新改御江戸大繪圖		西村屋與八 寛政四(再板)		抹消「日比谷ニアリ」
	3-8891-1	分間江戸圖鑑	岡文器	吉文字屋次郎兵衛 寛政改正版		
	3-8896-1	文化八年江戸圖「附補圖」		須原屋茂兵衛 文化八		
	3-8895-1	文化十年江戸圖「附補圖」		須原屋茂兵衛 文化一〇		
	3-8876-1	武江畧圖	岩崎常正	文政七		
	3-8863-1	東都近郊圖	仲田惟善	文政八		
	3-8803-1	「文政/改正」御江戸大繪圖		須原屋茂兵衛 文政一二		
	3-8887-1	分間江戸大繪圖	金丸影直圖	須原屋茂兵衛 文政一二		
	3-8816-1	懷寶御江戸繪圖	井上清風刻	須原屋茂兵衛等 文政一二(改正版)		抹消「日比谷ニアリ」
	3-8864-1	東都近郊圖	仲田惟善	文政一三(再版)		
	3-8799-1	増補江戸名所古跡神社仏閣獨案内記		和泉屋庄次郎 天保二		
	2-2800-1	上野總繪圖	佐藤則正	原本(天明二)		
	3-8817-1	「分/間」懷寶御江戸繪圖		須原屋茂兵衛 天保九		
	3-8818-1	「分/間」懷寶御江戸繪圖		須原屋茂兵衛 天保一〇		
	3-8844-1	天保十四年江戸圖	高井蘭山圖	出雲寺萬次郎 岡田屋嘉七 天保一四(三版)		
	3-8861-1	東都近郊全圖		山崎屋清七等 弘化元		
	3-8860-1	「増/補」東都近郊全圖		紙屋徳八 弘化元		
	3-8900-1	「武蔵豊島郡/峽田領荏土」楓川鑑之渡古跡考	池田義信	弘化二(同人版)		抹消「日比谷ニアリ」
	3-8866-1	「東都/郊外」みちしるべ	堀家愛政	岡村屋庄助 序, 弘化四		
	3-8786-1	「懷/寶」江戸近郷全圖		伊勢屋清三郎 弘化カ		
	3-8897-1	分色要覽圖		和泉屋半兵衛 嘉永元		

別置/特別	請求記号	資料名	編者等	出版(書写)者	出版(書写)年	備考
	3-8862-1	「増/訂」東都近郊全圖	高木保継	嘉永元		
	3-8763-1	永代御江戸繪圖		村田屋彦兵衛	嘉永元(再版)	
	3-8807-1	御江戸大繪圖	高柴三雄	須原屋茂兵衛	嘉永二	
	3-8811-1	嘉永二年江戸繪圖「附補圖」		村田屋彦兵衛	嘉永二	
	3-8810-1	嘉永二年江戸繪圖「附補圖」		村田屋彦兵衛	嘉永二(改正版)	
	3-8770-1	江戸繪圖	高柴三雄訂	大和屋万助	嘉永三	
	3-8813-1	「改/正」北本所「中ノ郷/石原」邊圖	村上吾雄	嘉永四(近吾堂版)		
	3-8821-1	「分/間」懷寶御江戸繪圖「附補圖」		須原屋茂兵衛	嘉永五	
	3-8822-1	「分/間」懷寶御江戸繪圖「附補圖」		須原屋茂兵衛	安政三	
	3-8873-1	萬世御江戸繪圖		萬屋庄助等	萬延元	
	3-8823-1	「分/間」懷寶御江戸繪圖「附補圖」		須原屋茂兵衛	慶應三	
	2-2796-1	上野一山略図		寫本		
	3-8764-1	永代御江戸繪圖				
	3-8772-1	江戸繪圖	喜多川草鳥	萬屋吉藏		
	3-8771-1	江戸繪圖		寫本		
	3-8773-1	江戸繪圖株帳		寫本		
	3-8785-1	江戸川々圖	杉山(八藏)憲長	原本		
	3-8787-1	「江戸/近郊」名勝一覽之圖	高柴三雄	三河屋善兵衛同甚助		
	3-8790-1	江戸圖「附補圖」	高柴三雄誌	山城屋平助		
	3-8789-1	江戸圖		寫本		
字 1-658	3-8791-1	江戸圖正大全	温清軒か圖	佐藤四郎右衛門		
特別	3-8792-1	江戸圖正方鑑		田方屋		
	3-8793-1	江戸之圖「一名江戸上水總圖」		寫本		
	3-8796-10	江戸番所繪圖		寫本		
	3-8801-1	御江戸繪圖		見須屋		
	2-2816-1	金龍山浅草寺境内並附近圖		寫本		
	2-1126-1	山王御宮圖		寫本		
	3-8831-1	「下谷浅草箕輪/千住今戸橋場」總繪圖		寫本		
	3-8833-1	洲崎海岸繪圖		寫本		
	2-3987-1	聖堂圖		寫本		
	3-8834-1	千束村繪圖	川添直敬	原本		
字 2-689	2-2846-1	増上寺一山總繪圖		寫本		
	3-8837-1	高輪北品川宿大井村猿町大崎繪圖	高井嵐山(伴覺)	寫本		
	3-8843-1	辻番所四ヶ所甲(早)見(柳澤家一手持)		寫本		
	2-2860-1	東叡山舊圖		寫本		
	2-2861-1	東叡山寛永寺繪圖		寫本		
	3- ?	東都近郊圖		寫本		
	3-2863-1	「西久保赤/羽根町」順了寺町屋指圖		寫本		
	3-8870-1	濱御殿地繪圖		寫本		
	3-8875-1	府郷江戸繪圖	高柴三雄	須原屋茂兵衛等		
	3-8890-1	分間江都圖		須原屋茂兵衛		
	3-8901-1	紅葉山御宮御靈屋向御繪圖		寫本		
	3-8902-1	紅葉山總繪圖		寫本		
	3-8903-1	紅葉山總繪圖		寫本(阿部某写)		

上記にない別置本 江戸方角安見圖鑑 字 1-659 3-8794-2

上記にない特別本 元禄江戸大繪圖 3-8829-1 元禄版初印 江戸 須原屋茂兵衛
 宝永江戸繪圖 3-8867-1 遠近道印圖 宝永四修 江戸 萬屋清兵衛
 武州豊島郡江戸庄圖 3-8892-1 刊本 ※寛永版ではなく化政頃として別置取消

